



第13回 ～語り合おう in Nagasaki～ 外国人による日本語弁論大会



第13回～語り合おう in Nagasaki～外国人による日本語弁論大会の様子

Contents

事業報告

- ・第13回～語り合おう in Nagasaki～
外国人による日本語弁論大会を開催しました！ 2～3
- ・第23回ながさき国際協力・交流フェスティバル
を開催しました！ 4～5

コラム

- ・世界から長崎へ～長崎在住外国人の紹介～ 6

世界でキラリ☆JICA海外協力隊

- ・買える食材…これだけ?! 7

協会からのお知らせ

- ・カレンダー市2022のお知らせ 8
- ・多文化共生をテーマとした
オンライン講演会・研修会のお知らせ 8
- ・長崎市国際課から
ながさき異文化ちゃんぽんフェスタのお知らせ 8

協会HPは
こちら！



Facebook
はこちら！



私たちは賛助会員として長崎在住外国人を応援しています！

安達株式会社	長崎空港ビルディング株式会社
ヤナセ産業株式会社	扇精光ホールディングス株式会社
長崎県青果移出商業協同組合	FROM ながさき協同組合



公益財団法人

長崎県国際交流協会

Nagasaki International Association

〒850-8062 長崎県長崎市出島町2番11号



TEL 095-823-3931
095-823-3929
FAX 095-822-1551
Eメール nia@nia.or.jp
HP <https://www.nia.or.jp>
FB <https://www.facebook.com/nia.nagasaki/>

事業報告

「第13回～語り合おう in Nagasaki ～外国人による日本語弁論大会」を開催しました！

2021年11月6日（土）、「第13回～語り合おう in Nagasaki ～外国人による日本語弁論大会」を国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で開催しました。大会には、4か国7名の長崎県在住の外国人が出場し、日本語で堂々としたスピーチを披露しました。入賞者のスピーチ動画は、長崎県国際交流協会の公式ホームページで見ることができますので、ぜひご覧ください！



最優秀賞「すみませんの意味」

LE THI ANHさん（ベトナム出身、株式会社フランソア）

みなさん、こんにちは。みなさんは、自分に何かの才能があると思ったことがありますか。私はあります。ただ何の才能があるかはわかりませんでした。「それはなんだろう」と思って、まず好きな事と出来る事について考えました。

子どものころから音楽が大好きでした。毎日歌っています。きっと音楽の才能があるだろうと思い家族の前で歌ってみました。でも母は何も褒めてくれませんでした。父も何も言いませんでした。姉も、弟も、みんな何も言いませんでした。私の歌声は綺麗ではないのかもしれないと思い音楽の才能があるのか疑いました。

ある日、姉が携帯電話を買ってくれました。その時、私は自分の歌声を録音して聞き直してみました。するとなぜ歌う時みんな何も言わなかったのかが分かりました。私の歌は下手でした。綺麗ではありません。それから音楽の夢は諦めました。

高校を卒業した時、通訳者や外国語の先生たちに憧れました。だから日本語を選んで勉強してみました。勉強すれば勉強するほど日本語も日本の文化も好きになりました。そして日本に行きたいと思うようになりました。今は日本の工場で働いています。2年間日本に住んでいて色々な事を教えてもらいました。

例えばベトナムにいる時は「すみません」という言葉はあまり使いませんでした。なぜなら、その時の私は「すみません」と言ったら悪いことをしたのを認めるという意味で恥ずかしいと思いました。

でも日本に来てから驚きました。日本人はよく「すみません」といっていますね。他人の前で咳が出た時も「すみません」と言います。他人は自分が落としたものを拾ってくれた時も「ありがとう」ではなく「すみません」と言います。なぜ「すみません」と言うのか分かりませんでした。

けれど長い間、日本に住んでいるとだんだんわかってきました。日本人にとって「すみません」と言う事は恥ではありません。ミスを認める時だけではなく相手の感情を考えるために「すみません」と言う時もあります。わざとではなくても自分がした事で他人の時間を使ったり気をつかわせたりする事があります。だから「すみません」と言うのは必要です。そのことは日本人が考えさせてくれました。

最近、外国語の他に興味があるのが絵を描くことです。早速100円ショップに行き絵の具を買って描き始めました。3時間で完成したその絵はとても下手でした。しかし「描く」という作業はとても面白いです。そして気が付きました。人生は絵を描く事みたいです。人によって描き方や色の選び方が違います。最後まで描かないと絵はどうなるか分かりません。何も描かなかったら、絵は白紙です。だから私は自分が興味をもったことは積極的にやってみたいです。何か特別な才能がなくてもやってみたことを通じて色々なことを学ぶことができます。日本語の勉強を通じて「すみません」を覚えてもらった事と同じです。

私は私の人生の絵を描いています。あなたもあなたの人生の絵を描いてください。私たちは綺麗な絵ができないかもしれませんが、是非意味がある絵を描きましょう。（原文のまま）



第2位・館長賞

「逆境を乗り越える日本人の力」

カルナナーヤカ ムディヤンセラーゲ
KARUNANAYAKA MUDIYANSELAGE

ナディーカー マネル カルナナーヤカ
NADEEKA MANEL KARUNANAYAKA さん
(スリランカ出身、長崎短期大学)

みなさん、こんにちは。私はスリランカから来たナディーカーです。今日は、私が「逆境を乗り越える日本人の力」についてお話をしようと思います。

皆さんは、2020年オリンピック・パラリンピックをご覧になりましたか。パンデミック拡大により、開催自体が困難な状況にありましたが、日本オリンピック・パラリンピック委員会を始め、多くのボランティアの活躍で無事に開催されました。競技を終えた選手が、自分の感想よりもはじめに「開催に対する感謝」をスピーチしていたことから、大会の成功がうかがえました。

私は今回の大会が成功した理由は、ふたつあると思います。ひとつ目は、日本は困難な状況における多くの知見と国民のルールを守る社会的態度、そしてふたつ目は気遣いの言葉です。

日本は76年前に原子爆弾を落とされ、二つの都市が破壊されました。近年では東日本大震災に起因する発電所の事故で、多くの町が壊滅的な打撃を受けました。また、日本はいつでも自然災害に直面している国でもあります。人的な破壊や自然による破壊が繰り返されてきた日本ですが、そのような困難な状況から何度も何度も元に戻して、前に進もうとする日本人の絶え間ない努力は、シンプルな言葉になりますが「すごい！」と思います。

私の母国であるスリランカは、気候も一定で自然災害もほとんどありません。そのような安定した国から来た私は、もし、私が日本人だったら日本のような危ない場所には住みたくないと思います。また、可能ならば、他の国へ移動するかもしれません。

しかし、日本は、これまでの災害経験から災害を避けるために長い間準備をしてきました。こういったことが、国民がコロナに対してパニックにならず、オリンピック・パラリンピックが開催できた理由だと思います。

また、長い年月で作られた日本語の気遣い表現は、災害時のコミュニケーションでも非常に役に立ちました。例えば、2020年のはじめから新型コロナ感染が広がり、思うように家族に会いに行けない外国人の私たちは、孤独感に襲われ、多くのストレスに支配されるようになりました。しかし、そんな私たちに目を向けて「大丈夫？」という言葉は、まるで魔法のように心の寂しさを鎮めてくれます。「大丈夫？」の後に音としては聞こえないけれど、そこには「何かあったらすぐに言ってね」とか「私が側にいるからね」という思いやりやいたわりの声が聞こえるからです。

日本語も外国の他の言語にも、ほとんどすべての人間の感情を説明できる語彙がありますが、日本語の言葉の運用のバリエーションには、災害時でも、人を衝動的にさせない平和的な働きがあります。言葉の中に隠された平和なやり取りが、日本語以外にあるでしょうか。

これからもっと私は日本語を学んでいきます。そして、この平和を造り出す言語である日本語を使って、たとえ困難な状況になっても、周りの人に恩返しをしていきたいと思っています。(原文のまま)



第3位

「日本の生活はどんな色ですか。」

グエン ティ タイン トゥイ
NGUYỄN THỊ THANH THUY さん
(ベトナム出身、鎮西学院大学)



未来賞

「外国人から見た日本」

ダミ ロケンドラ
DHAMI LOKENDRA さん
(ネパール出身、鎮西学院大学)

入賞者のスピーチ
動画の視聴は、
こちらから！



事業報告

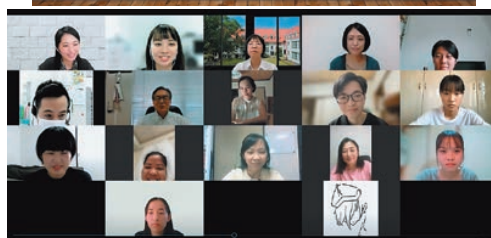
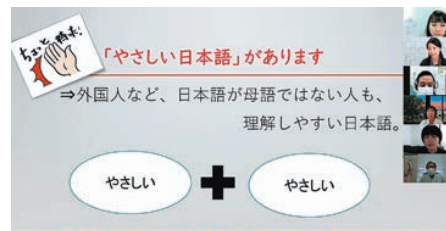
第23回ながさき国際協力・交流フェスティバルを開催しました！

今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、10月の1か月間を「フェスティバル月間」として開催しました。オンラインでの県内国際協力・交流団体の紹介、対面は小規模イベント・講座の開催となりましたが、皆さまのおかげで2年ぶりにフェスティバルを開催することができました。

やさしい日本語講座

10月16日（土）、ことばサロン TSUMUGI の和田一菜さんを講師にお迎えし、やさしい日本語講座をオンラインで開催しました。講座では、外国人の方に対して、簡単な、そして優しい気持ちを持って日本語を話す体験をしました。参加者の皆さんからは、「難しい!」「どうしても文章を長くつなげてしまう」「頭を使って話すので、疲れてしまう」など、いろいろな気づきが生まれたようです。

「やさしい日本語」は、外国人のためだけのものではないことが分かり、もっと生活の中で意識して使っていきたい等の感想をいただきました。



韓国組ひも体験講座

10月17日（日）、長崎県庁大会議室にて、県国際交流員の崔ダウンさんを講師にお迎えし、韓国の伝統工芸である韓国組ひもの体験講座を開催いたしました。今回は、「センチョク（生姜）メドゥプ（組ひも）」という生姜の形をした結び方で、ブックマークを作りました。

韓国組ひもの歴史や文化についても学びながら、楽しく体験することができました。また、時間内に、皆さん作品を完成させることができ、「初めてで難しかったけど楽しかった!」「家でも作ってみたい」などの感想をいただきました。

サリー着付け体験講座

10月17日（日）、長崎県庁大会議室にて、ネパール人ご夫婦のタクルさんとウサさんを講師にお迎えし、サリーの着付け体験講座を開催しました。タクルさんに、ネパールの食べ物や観光地、お祭り等の文化紹介をしていただき、ウサさんには着付けを行っていただきました。

サリーには、着方がいくつかあることや、既婚の女性は赤色のサリーを着ることが多いことなど、学びながら体験することができました。参加者の皆さんからは、「ネパールに行ってみたくなった」「いろんな色のサリーがあって楽しめた」などの感想をいただきました。



ベトナムコーヒー体験講座

10月17日(日)、長崎県庁大会議室にて、ベトナム人のガンさんを講師にお迎えし、ベトナムコーヒーの体験講座を開催しました。参加者の皆さんは、ベトナムの歴史や食べ物などの文化紹介を学び、その後、ベトナムの音楽を聴きながら、コーヒーを抽出する「フィン」を使って伝統的なベトナムコーヒーの淹れ方を体験しました。

参加者の皆さんからは、「時間をかけてじっくり淹れる方法に驚きました」「家でも気軽にできそうなのでやってみたい」などの感想をいただきました。



— 出展者 —
トネタワ
Charitable Trade
旅するおやつ屋シエスタ
chaokao material
わかば堂
JICA デスク長崎



フェアトレードマーケット 2021

10月20日(水)、長崎県庁エントランスホールにて、フェアトレードマーケットを開催しました。

出展者は、フェアトレード製品を材料にしたコーヒーやお菓子、手工芸品などを販売しました。お客様に直接フェアトレードについて説明したり、製品を作成している現地についてお話しいただく良い機会にもなりました。

来場客の皆さまが、今後の日常生活の中で、少しでもフェアトレードを意識していただく機会が増えると嬉しいです。

日本文化体験教室

10月30日(土)、長崎市の出島にて、日本文化体験教室『着物を着て出島散歩！～茶道体験&長崎検番踊り見学～』を開催しました。中国、ベトナム等出身の留学生や技能実習生、16名が参加しました。

参加者の皆さんは、思い思いに選んだ着物に着替え、出島散策を楽しみました。長崎検番の踊りを見学したあと、楽器体験やソーラン節の踊りも体験させていただきました！最後に、抹茶とカステラを味わいました。

海外との歴史が深い出島で、伝統的な日本文化を体験し、日本への興味・関心をさらに深めた一日となりました。



コラム



世界から長崎へ！



～長崎在住外国人の紹介～

ドイツ出身 フェストア・デニさん

皆さん、こんにちは！私は、ドイツのルール地方出身のデニです。2018年に長崎出身の妻が妊娠し、子育てのために東京から長崎に戻りました。去年から、自営業でホームページの開発を始めました。将来の夢は、長崎の企業を世界につなげる架け橋になることです。

12月はちょうどクリスマスの時期なので、ドイツのクリスマスについて話したいと思います！ドイツ人にとってクリスマスはすごく大事な時期で、楽しいことがいっぱいあります。

ドイツ人はハロウィーンを祝わないので、夏が終わると、クリスマスの準備が始まります。9月になると、スーパーでSpekulatius（スペキュロス）というクッキーやLebkuchen（レープクーヘン）というチョコレート・ジンジャー・ブレッドなどのクリスマス限定のお菓子を買えるようになります。11月になれば、ラジオやスーパーで、クリスマスの歌が流れます。

クリスマスの4週間前の日曜日からAdvent（アドベント）という時期が始まります。家には、Adventskranz（アドベントクランツ）という4本のキャンドルを立てた伝統的なリースを飾ります。毎週1節ずつアドベントの歌を歌いながら、1本ずつキャンドルに火を灯し、クリスマス前の最後の日曜日に、最後の4節目を歌い、4本のキャンドル全てに火を灯します。クリスマスツリーも飾ります。昔は本物のモミの木が使われていましたが、最近では、人工のツリーも増えています。

クリスマスマーケットというお祭りもあります。きれいなイルミネーションと様々な飲み物や食べ物を楽しめます。寒いドイツのクリスマスの時期には、特にGlühwein（グリューワイン）という温かいワインが人気です。子供たちは、お菓子やおもちゃのお店や、メリー・ゴー・ラウンドなどで楽しむことができます。また、ルール地方のドルトムント市には、世界一の高さを誇るクリスマスツリーがあったり、ボーフム市には、中世スタイルのクリスマスマーケットがあったりと、様々な都市をめぐって楽しめます。

12月に入ると、アドベントカレンダーを使ってクリスマスまでのカウントダウンをします。12月1日～12月24日まで毎日カレンダーのドアを1つずつ開けて、チョコレートやお菓子、小さいおもちゃなどを取り出して楽しめます。待ちきれない子供は、初日にカレンダーに入っているチョコレートを全部食べてしまいます。

ドイツのクリスマスは、12月24日のクリスマス・イブから3日間お祝いをします。アメリカと違い、ドイツの多くの家庭にとってメインイベントはクリスマス・イブです。家族とクッキーを作ったり、歌を歌ったり、プレゼント交換を行います。私の家族はよくラクレットを食べます。12月25日は家族と過ごす日で、翌26日はゆっくりしたり、友達と過ごしたりします。

ドイツに行ってみたい人は、是非クリスマスの時期に行ってみてください！



手作りクッキー♪



クリスマスマーケットの様子



アドベントカレンダー

世界でキラリ★ JICA 海外協力隊

～買える食材…これだけ?!～

Mwauka uli? Ndhine Ryosuke.

マウカウーリ? ディネ リョウスケ。
(こんにちは! 元気? 私は良輔です。)

川渕 良輔 (かわぶち りょうすけ) さん

【2018年(平成30年)2次隊 マラウイ 栄養士】

世界中で活躍する JICA 海外協力隊。2018年10月からマラウイで栄養士隊員として活動した川渕さんにお話を聞きました!
私たちにとって身近な食事・栄養。アフリカの栄養事情は……?



マラウイは、アフリカ大陸南東部に位置する共和国国家。
細長い形をした国で、首都はリロングウェ。国土はほとんど高原上にあり、マラウイ湖が大きな面積を占める。
マラウイの公用語は英語とチェワ語。



マラウイは世界最貧国と呼ばれるほど経済的に貧しい国ですが、一方でその国民性は「Warm heart of Africa」と称され、おおらかで、人間味あふれる特徴があります。私はそのマラウイへ栄養士として派遣され、ムフェレンベヘルスセンターという村の診療所で栄養改善に向けた料理教室を定期的に開催していました。健康的な食生活には、一般的にバリエーションに富んだ食材を組み合わせた食事をイメージするかと思いますが、村に住み始めてびっくり。マーケットに並ぶ食材はほぼ顔ぶれが同じ。ひどい時だとその種類は片手で数えられる時もありました。そんな食環境がギリギリの中でも、何とかして村人たちに食の楽しさや、食を通じた健康づくりに興味を持ってほしいという思いから、料理教室で栄養豊富なレシピを地道に紹介し続け、「美味しい」「次は何を紹介してくれるんだ?」と無邪気に喜ぶ参加者の姿には、何度も心が救われました。

帰国後、協力隊のエピソードを話すとき、多くの日本人にとってマラウイは馴染みのない国ですが、私にとっては大好きな料理の楽しさに改めて気づかせてくれたり、挑戦することの大切さを教えてくれた、最も馴染みがあり、かけがえのない国の1つです。マラウイ人の仲間と次会うとき、自信をもってお互いの今を熱く語り合えるよう、これからも自身にできることを誠心誠意、心を込めて取り組んでいきたいと思っています。



診療所での料理教室



マラウイ人シェフと開催した日本食祭り



民放の料理番組に出演

協会からのお知らせ

カレンダー市 2022 ～あなたもできる国際協力～

カレンダー市では、企業等から寄付していただいたカレンダー・手帳を100円から販売しています。収益金は、フィリピンの国際NGO団体「Development Action for Women Network」「Childhope Philippines Foundation」に寄付させていただきます。また、ご来場の際、ご家庭にある不要な文房具も、ぜひ一緒にお持ちください。寄付された文房具は、ラオスの学校に行けない子供たちへ寄付されます。

日 時：2022年1月15日(土) 10:30～16:00
場 所：長崎県美術館2階ホール（長崎市出島町2-1）
問合先：長崎大学 学生国際NGO BOAT



E-mail: boatotoiawase@live.jp
(公財) 長崎県国際交流協会
TEL: 095-823-3931



- 入場は無料です。
- 個人でのカレンダーの寄付は受け付けておりません。
- お渡し用の袋は、有料となります。マイバックのご持参をおすすめいたします。
- 当日は、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染予防のため、マスク着用の上お越しください。

多文化共生をテーマとしたオンライン講演会・研修会のお知らせ

オンライン講演会「これからの地域社会と外国人とのコミュニケーション」

講 師：神吉 宇一氏（武蔵野大学） 開催日：2021年12月23日(木) 19:00～20:30

人口減少の局面を迎える日本では、地域社会や地域産業の維持・発展のため、外国人の受け入れ促進が活発化しています。

本講演では、日本社会における外国人受け入れの現状と求められるコミュニケーション支援、特に日本語教育についてお話していただきます。

- 申し込み期限：12月17日(金)
- 定員：100名
- オンライン（ZOOM・ウェビナー）

オンライン講演会
専用申込フォーム



日本語学習支援者のためのオンライン研修会（全5回）

「ながさき Well-being 多文化共生の未来研究—多様な日本語コミュニケーションを考えよう—」

- ◆第1回：2022年1月17日(月) 19:30～21:00
「共につくっていくながさき—“多文化共生”って何?—」
- ◆第2回：2022年1月24日(月) 19:30～21:00
「やさしい日本語って何だろう?—相手と自分の間にある言葉を考える—」
- ◆第3回：2022年1月31日(月) 19:30～21:00
「ながさきで暮らすわたし—多様な人のキモチ、思いを聴く—」
- ◆第4回：2022年2月7日(月) 19:30～21:00
「多様な人との日本語まなび場の意味を考える
—“地域日本語教室”って何?—」
- ◆第5回：2022年2月21日(月) 19:30～21:00
「多様な人との日本語コミュニケーションをはじめよう
—Well-being なわたしたちのながさきの未来を描く—」

- 申し込み期限：1月7日(金)
- 定員：30名
(先着順、5回全て参加できる方)
- オンライン（ZOOM）

オンライン研修会
専用申込フォーム



主催：NPO法人国際活動市民中心(CINGA)
共催：公益財団法人長崎県国際交流協会
協力：長崎県

長崎市国際課より「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」のお知らせ

市民のみなさんに世界各国の文化や国際交流団体の活動内容を紹介し、異文化に対する相互理解を深めるため、今年はハイブリット形式で「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」を開催します！

ちゃんぽんフェスタでは、交流ブースの設置やオンラインによる催しを行います。なお、オンラインでの催しへの参加には、事前申込が必要です。また、当日会場に来場できない方も、写真や動画で異文化交流を楽しむことができます！詳しくは、長崎市国際課のホームページ・Facebook をチェックしてください！

日 時：2022年1月22日(土) 12:30～16:30
場 所：長崎ブリックホール（長崎市茂里町2番38号）
主 催：長崎市国際課

長崎市国際課の
HPはこちらから！

